



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三三〇号〕

白露 はくろ

九月七日

神宮遙拝所

「灯台下暗し」。灯明台の直下が暗いように、身近な状況はかえって気づきにくいこと。コロナ禍で、遠くへの旅行が難しいため、近くへ出かけようというマイクロツーリズムが注目されています。三重県内の小中学校の修学旅行も県内へ旅先を変更するなど、まさに「灯台下」に灯りがあてられるようになりました。

私も自粛期間中は、夕方、近所のウォーキングを日課としていました。所要時間などの異なるコースをいくつか作っていたのですが、最も気に入っていたのが、地域の氏神さんへお参りするコースでした。氏神さんというのは、自分が住む地域を守る神をまつる神社のこと、地域をぐるりと見渡すと、こんもりとした森が目印です。鎮守の森とか、産土の神とも呼ばれます。私が暮らす地区の氏神さんは、小学校の前にあります。鳥居前で帽子を取り、参道を進むと、汗もひき、気持ち静まります。そして拝殿で手を合わせます。

あるとき、参道の傍らに、「神宮遙拝所」と彫られた高さ一メートルほどの細長い石碑を見つけました。神職もふだんはいない小さな神社ですが、伊勢神宮を離れたところから拜む場所がきちんと設けられていたのです。神前には行けないけれど、そちらの方角に向かって遠くから拜む遙拝というシステム。それからは、参道の神宮遙拝所で手を合わせ、お参りするようになりました。氏神さん、神宮遙拝所、近くに「祈りの場」があることで、安心して日々暮らせることに感謝しました。

コロナ禍、新たな暮らし方が求められます。そこに「祈りの場」が大切であるに違いないと思いました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 来る福招き猫まつり

新しい感染症が流行する今年、このお祭りを開催すべきかどうか大いに悩みました。しかし、このような大変な時こそ、皆様が健やかにお過ごしいただけるよう、招き猫たちと一緒に祈り願いたいと考え、感染症予防の対策をとりながら開催させていただくこととしました。

病除けとされる赤色の招き猫、魔除けの招き猫、厄除けの招き猫など、全国各地から集まる、皆様の「無病息災」を願う招き猫たちにどうぞ会いに来てください。

と き／9月29日(火)～10月11日(日) 9:29～17:29(催しにより異なる)

ところ／おかげ横丁一帯

※諸事情により、内容が一部変更または中止になる場合もございます。

- 招き猫現代作家展 ところ／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」
招き猫は、江戸末期に日本で誕生し、現在では国内外で親しまれ、個性溢れる作品として表現されるようになりました。
今回は、天野千恵美、有田ひろみ・ちゃぼ、小澤康麿、小嶋伸、ホソカワマサヒコ、松田一戯、水谷満、もりわじんの皆様に出演いただきます。
- 郷土玩具招き猫展・郷土玩具制作実演 ところ／五十鈴茶屋本店前
全国各地で伝統的に作られている郷土玩具の招き猫を集めました。
- 来る福展覧会 ところ／おかげ横丁各店
各店を巡りながら、13名の招き猫作家さんのミニ個展をお楽しみください。
- 招き猫絵付け教室 ところ／五十鈴茶屋本店前
真っ白の張子の招き猫にアイデアたっぷりの絵付けを施して、オリジナルの招き猫を作ってみませんか。
- 作り手による実演と個展 ところ／赤福別店舗
各ジャンルの作家さんが在廊。実演や体験教室を開催します。

五十鈴塾

○ 『春夏秋冬、三重の祭り』

講師の北出さんは百五銀行に勤めるかたわら、高校時代から始めた写真に魅せられ郷土の風景を撮り続けてきました。百五の広報誌「すばらしき三重」の写真をご覧になった方もいらっしゃるでしょう。

お人柄のあたたかさがうかがえる風景も人物も素敵なのですが、各地のお祭りを撮影された写真は今ではとても貴重なものとなっています。

過疎化、少子高齢化で伝統のある祭りはだんだんと途絶えつつある中、写真を見せていただきながら三重の祭りを記憶にとどめていきたいと思えます。

コロナ禍で春夏秋のお祭りの多くは中止となっています。冬もどうなるかわかりませんが、私たちが覚えていることが祭りを続けるよすがともなります。

各地の祭りを見ながら祖先が伝えてきた文化の継承を考えてゆきたいと思えます。

と き／9月16日(水) 13:30～15:00

講師／北出 正之(郷土写真家)

参加費／一般1,350円 会員850円

場所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

はぎ
萩

道明寺入りの葛で白餡を包み、秋風に揺れながら花びらに露を抱く、萩の姿を表現しました。

みのり

ういろう生地で柿餡を包み、蓮台寺柿独特の角張った姿に似せました。ひと足早い伊勢の秋の実りをどうぞご賞味ください。

げつ
月 兎

こし餡を包んだ道明寺生地に氷餅をまぶし、下界にぴょんと降り立った、白い月兎に見立てました。